

研究課題名：	永久結腸ストーマ傍ヘルニアの腹直筋の厚さと経年縮小率に着目して
所属(診療科等)：	公立昭和病院 看護部
研究責任者(職名)：	新井 陽子
研究期間：	2018年3月2日～2018年12月31日
研究目的と意義：	ストーマ傍ヘルニアの発生要因を明らかにし、その中に腹直筋の厚さが関連するか検討する。
研究内容：	<p>●対象となる患者さん 2013年1月1日～2015年12月31日に永久の結腸ストーマを造設し、造設後から3年以上経過した人</p> <p>●利用するカルテ情報 造設時年齢、性別、疾患、術式、ストーマ造設使用腸管、ストーマ造設部位、ストーマ造設経路、手術の緊急度、術前ストーマサイトマーキングの有無、P S H発症時期、手術時の身長、体重、B M I、P S H発症時の体重 術前A L B値、術前・術後の腹部C Tから抽出：腹直筋の厚さ・ヘルニア門の位置、腹直筋外縁からの距離、</p> <p>●研究方法 すでに治療を終了した方のカルテ情報を用いて情報を収集し、ストーマ傍ヘルニアの発生に腹直筋の厚さや経年変化が影響しているかを調査する。 ① 2013年1月～2015年12月に永久の結腸ストーマを造設し、造設後から3年以上経過した人（永久の結腸ストーマは単孔式、双孔式を含む）の術前・術後のC Tを撮影している人 ② ストーマ傍ヘルニア発生群と非発生とに分けて比較検討する。 ③ 術前の腹直筋は臍の左右両方の腹直筋最大の厚みを図る。 ④ P S H発症後は、臍横左右、健常側とストーマ左右の腹直筋の厚みを測る。</p> <p>●利用する研究機関の範囲 横浜南病院、草加市立病院、深谷赤十字病院、大久保病院、東京女子医科大学八千代医療センター、公立昭和病院</p>
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：新井陽子（看護部） 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】（診療内容に関するものは除く） 総務課 042（461）0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）</p>